



学校評議員会について

2月16日（金）に、学校評議員会が行われました。学校評議員会は、法的に定められた学校評議員制度の下で開かれています。趣旨としては、地域住民の学校運営への参画の仕組みを制度的に位置付けるものとし導入されたもので、導入されて20年以上たっています。潮見小学校では、学校評議員は8名います。公民館、まちづくり協議会、PTA、福祉関係者、教育関係者で構成されています。

今回話し合われた内容は、主に学校評価に関することです。児童、保護者、教員によるアンケート結果を基にしながら、成果や課題について確認をしました。

その中で特に話題になったのが、「挨拶」です。以前にも挨拶について触れましたが、地域の方も挨拶は重要と考えています。ただ、地域の方から子どもに向けて挨拶をすることはためられる、という意見が挙がりました。みだりに子どもに声を掛けると「不審者」と思われてしまう思いがあるからです。

子どもたちから進んで挨拶をしてくれると、安心して声を掛けられる、ということでしたので、まずは子どもたちから「先取り挨拶」をしていきたいと思えます。

また、地域の方から、「子どもたちの活動を支援します」、という温かい言葉もいただきました。総合的な学習の時間などを通して、今後も地域とのつながりを大事にしながら「ふるさと潮見」を**実感できる活動**を展開したいと思えます。そして、今後の「コミュニティ・スクール」へとつなげられるように努めます。「コミュニティ・スクール」については、改めてお伝えいたします。



将来の見通しをもつこと

子どもたちは、どんな仕事に就きたいと思っているのでしょうか。小学生は6年間の幅がありますので、低学年と高学年では意識の差があると思えます。それでも、夢をもってそれに向う姿勢はもってほしいものです。

2月20日（火）に、キャリア教育の一環として、県下の全公立小学校の6年生を対象に「夢わく work フェスタ」がオンラインで行われました。中学2年生になると「えひめジョブチャレンジU-15（職場体験学習）」が行われるので、その前段階として6年生にも、小学生なりの**職業観をもつ**ことを目的に行われたものです。県内で仕事をしている人の話や職場体験学習を終えた中学生の声などを聞く中で、将来はこんなことができそう、こんなふうになりたい、と思った子も多かったと思えます。

キャリア教育は、「子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけ」のことです。必ずしも「職業」だけを意識

したものではありません。子どもたちの中には、就きたい職業がまだ見つからないということも、当然あります。生き方や自分の役割という視点で、自分の将来を考えることができるような活動についても取り組んでいきたいと思えます。

